

はばたき21通信

2018.3
No.35

特集
あなたの
居場所は
ありますか？

- 男女平等推進フォーラム講演会
「生きづらさ万歳！～私の居場所はここにある～」
講師：雨宮 処凛さん(作家)
インタビュアー：佐藤 香代さん(弁護士)
- 「生きづらい」と感じることはなんですか？
- どうする？ 家庭での性教育
- たいとうのキラッとさん紹介
- はばたき21情報コーナーおすすめ図書案内
- はばたき21公募区民との協働事業の紹介

● INFORMATION ●

たいとうのキラッとさん紹介

いずみさわ とも子さん NPO法人 ガイドヘルプあいサポート理事長

和泉澤さんは視覚障がいを持つ知人と外出する機会を作るため、「社会の役に立つことをしたら」という娘さんの一言をきっかけに視覚障がい者の移動支援事業に関わりはじめました。移動支援から同行援護への制度変更に伴い、有志のヘルパーと平成24年にNPO法人を設立して、視覚障がいをもつ人の外出をサポートしています。そのほか、企業や学校でアイマスク体験会やガイドヘルプ研修を開いて、視覚障がいへの理解促進にも努められています。

利用者の中には、スキューバダイビングや山岳マラソン、写真撮影などを趣味にする方もいて、以前より外出する機会が増えたと利用者から喜びの声が届けられており、「末長くこの活動を続けていきたい」と抱負を語ってくれました。



はばたき21情報コーナーおすすめ図書案内

『不自由な男たち』

—その生きづらさは、どこから来るのか—
小島慶子・田中俊之著 祥伝社



「働いて家族と生きる」というごく当たり前の事が、しんどい世の中は間違っている。男と女で責任をなすり合うのではなく、一緒に声を上げて言うべきときというのが著者ふたりの結論。

『ルポ 希望の人びと』

—ここまでできた認知症の当事者発信—
生井久美子著 朝日新聞出版



これまで認知症は主に家族や医療・介護する側の視点で捉えられてきた。しかしいま、当事者の発信が社会を変えようとしている。認知症をめぐる問題のほとんどは「人災」であることもわかってきた。いのちの現場からの渾身の報告。

『ハイスペック女子の憂鬱』

矢島新子著 洋泉社



高学歴、高収入、高ルックス…、彼女たちはなぜストレスでツブれるのか!? 女性産業医が見た一億総活躍社会の現実と、仕事のできる素敵な女性が生活と仕事の両立を楽しめる時代がくることを願って書かれた一冊。

はばたき21公募区民との協働事業の紹介

男女平等推進フォーラム

ひとりひとりが個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、年に1回実施している区民参加のイベントです。

講演会や男女平等推進登録団体によるワークショップ・作品展示などを実施しており、どなたでも参加できます。



はばたき21通信

男女平等を推進するための情報誌です。8月と3月の年2回発行しています。2002年7月に創刊号を発行し、本誌で35号目となります。

区役所や区民事務所、生涯学習センターなどの区内施設、都内女性センターなどで配布しています。



コミュニティ・カフェ

毎月第3土曜日の14時～16時に、プラザの調理コーナーで開催しています。参加費無料、予約不要、どなたでも参加できます。

カフェ運営委員による温かいもてなしと楽しい小物作りで、誰もがほっとできる場を提供します。



編集・発行：台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」

台東区西浅草3-25-16 (台東区生涯学習センター4階)

電話 03-5246-5816 ※日曜・休館日以外の9時～17時

開館時間 9時～22時

休館日 第1・第3・第5月曜日(祝日にあたる場合はその翌平日)

年末年始(12月29日～1月3日)

情報誌編集委員(五十音順)

市村 有花里・漆原 美智子・河村 直希

近藤 章子・佐藤 陽子・鈴木 渚・富樫 聖子

ホームページ [はばたき21](#) 検索



百紙ヘルプ配合率80%再生紙を使用

